

よこひな通信



11月号 令和7年10月24日発行

校長 見目 茂則

ようやく秋を感じる気温になり、校舎外や校外の活動にも暑さを気にしなくても取り組めるようになりました。

2学期になりますと、教育実習や介護等体験の実習生が数多く来ようになります。また、外部の講師による授業への関わりも予定されています。生徒の皆さんも、普段の授業とは少し違った雰囲気の中で、ともに時間を過ごします。社会に出てみますと、さまざまな人と接することになります。実習生や外部の講師との出会いもそうした機会の一つですが、他校の生徒や、年代の異なる現場実習先の利用者の方々などと接することも、長い人生の経験値を上げるための、学びの機会と捉えることができます。

フードサービスユニットの活動では、パン販売を通して、地域の方々、県立高校での販売もありますので、同世代の高校生とも接します。また、グリーンサービスユニットの活動でも近隣の住民の方々、オフィスサービスユニットは近隣小学校との交流もあります。来月行われるよこひな祭では、自治会の参加や事業所による販売など、もっと大勢の方々が来校され、生徒たちの協力や支え合いなど、さまざまな場面が展開されると思います。生徒の皆さんは、クラスに、各学年に、そして、横浜ひなたやま支援学校に通学しています。また、自宅があり、家族と住んでいます。自宅の近所の方と顔を合わせる機会もあります。自分の周囲を見回すだけでも、人とのつながる場が数多くあります。つながりを持つことは、困ったときなど結局は、自分も、相手も、支えられ、支えることになります。とても大事なことです。

コロナ禍により、すべての対外的な活動が一旦は途絶えましたが、再開してみると改めてその価値に気づかされたことも多いのではないかと思います。一つひとつの教育活動はとても貴重な学びの場、出会いの場でもありますので、常に、企画内容をリニューアルしながら、生徒の自己実現の達成に少しでも近づけていきたいと考えています。

